〔第三種郵便物認可〕 昭和二十一年一月十四日 磐城新聞 〔木曜日〕 第四千八百二十二號 〔一〕

夕刊 磐城新聞
一月十三日發行
發行所 磐城新聞合資會社
(日曜祭日翌日休刊)
振替東京一〇八五五六五番

石城の年中行事
―正月の巻―
磐女郷土研究部調査

二

○三日 三日とろろ
この日とろろ汁を食べるが、四日のところも七日のところもあるらしい。又此晩家の周圍にとろろを撒くのはわばりついて病氣などが入つて來ぬためといふ

○四日 棚下し
田樂を食べる。大抵胡麻味噌などをつくつて餅につけて食べるのである。卽ち方々に供へた餅はみなこの日さげる

姑入り
見参祝儀ともいつてゐるが、結婚後はじめての正月なる場合、嫁が餅や酒など持つて里へ泊りにゆく日である。親が若夫婦を伴つて里方に初の見参にゆく日である

○五日
五日止月といふ

○六日 山入り
山たてといふ處もあるのは農たてに對してのことらしい。歳男が酒、米、餅、頭付きの魚などいろ〱あるがそれらの中の幾つかを枡等に入れ、早朝鉈や斧を持つてカラースカラースオミサーギオミサーギと鳥をよびつゝ山神の祠に行つて其等に供物をそなへ柴を少し刈る。柴は何本でもよいだらうが、山萩のやうに定つたものを刈るところもあるらしい。木は方向を見て伐るので濫りには伐らないかきだれといつて祠の近くの木の枝に細く切つた紙片をさげまたカラース〱オミサーギを連呼し乍ら歸つて來る。供へた餅は半分いたゞいて來るが、これはこの次始めて山仕事に行く時に山入りに伐つて來た柴で燒いて食べるのである

山入りの供物は前に擧げた外柿、昆布を用ひる所もあり一定しない。四日の棚下しにさげた餅を使ふところもある。又此の日伐つて來た柴で御飯をたいて神に供へる家もあるさうである

○七日 七草粥
今は大抵略して菜は一種類か二三種にとゞまつてゐるやうであるが、多く使用されるのは嫁菜、蕪、芹、大根等で、人參、牛蒡、葱、三葉、芋等多くの種類に及ぶ。此等を切板にのせて庖丁でたゝくのであるが

七草なづな唐土の鳥が日本の土地に渡らぬ先にストトン〱

と夜明けの雞のまだ鳴かぬ中にたゝく。たゝいた菜の汁をつけて爪を切ると指を病まぬといひ、惡虫にさゝれぬといふ

今日の訓へ
新名 由人

學は概念を教ゆるものでこれを觀念に引戻さなければ、實際には役に立つものではない。そこで人の議論などや書いたものや、聞いたり、讀んだりする者は(概念であるから)架空の弊に陷り易いものである。故に概念を觀念に讓製すること出來ないものは、たとへ萬卷の書を讀むともその應用に至つてはから駄目で、所謂、論語讀みの論語知らずである。子の曰はく、學んで思はざれば卽ち罔く、思ふて學ばざれば卽ち殆し

除夜
珠雲 小野務平

勵精祇合業必全
白屋甘貧本宿縁
唯此一宵分曆日
寒燈守歲思綿々

平消防組
―川柳―
平 華生

消防の博士の指揮で士氣奮ふ
警察と幹部の指揮と組の意氣
縣下否全國知らる平組
消防と火防と警備ピッチ合ふ
機具もよし又精神で消す平組
火事なんかボヤでとめると平組
出初式見ては平も高枕
イナセなる兒賞技よし
梯子乗り
梯子上ハラ〱させる
諸務當
新川岸初春を飾る平組

黒髮
岩田 じよ

遺品の袖に秘められし一すぢの黒髮あやしくもおののく
若く美しくしくして逝きし叔母のうつし身のなごりなれば
手作りの花にうもれ人形いだきてありし悲しみの姿まざ〱と浮べり
御魂よ安らかにあれひたすらな我かへらぬ繰言に泣く

歳末に詠める
鎌田 定

○鉛筆をなめ〱書きし文ならむ幼き文字の愛しかりける
○月々にコドモアサヒを送らむぞ愛しくまさきく育て幼子
○來春は早九歳にならむとす繪本はやめて幼年倶樂部送らむ
○正月の歸省も近くうからからのみやげ請求は愛しきものかな
○歸省してうからと話睦ぶ夜はしんと靜まり雪の氣配す

松のうち
下
高瀬 勝男

五日、町内の宴會、早々に家に皈つて住所錄を整理ノートを整理、かきたまつた原稿紙を整理、ゆつくりと三十三才の面目、今年、そと思うち先程迄の酒の故か、氣分惡く宵のうちより萬年床にもぐる

六日、夕飯後、將棋をやりに行つて負けつづけ(尤も勝つた事なし)雨にふられて皈る

七日、あした山肌白く、小寒に入つたこと、にわかなる冷え、松のうちも七日迄

酒は戸毎の禮か、もうかまわないと思ひわが身五体の髮膚父母よりうく、わが身にあらざる代物、なれどつねられていたさあり、酒と料理、味はひ、これは御本人の胃腑におさまる、家の仕事がすんだら傾けてゐた勉強を始めようと壁近くもなれば手紙あり

早速能出で候處、先づ一獻、ずうつとそのまゝ夜十時迄、時間が長い醉ひ醒めて醉ひ、醒めて醉ひ、饗宴殿にひやかされて初心退散

酒は結構ながらこう續けるに、あきつかまつり、どころゝ茶をたてゝ苦茗に醉然とした、閑雅な席が戀しくなつた

作法の妙、主人の手並、酒の雜よう好もしくなつてきたが、さて招じてくれる佳人のないのをこれいかにせん、まつたくのんで去つた松のうち

室に花を飾つて久方ぶりで今日おちついた

1月14日

△北條氏綱江戸城を占領(大永四)△新島襄生る(天保一四)△岩倉具視赤坂に遭難(明治七)△北海道空知郡三井鑛山内砂川鑛業所ガス爆發死傷多數(昭和一一)

小說 高橋是清
(210) 松浦泉三郎作 佐々木今朝吉畫
葉山の海 (九)

『今時分こんな所で一體何をお考へになつておいでゞしたか?』

伊皿木は再び眸を是清の福々しい温顔に移して笑ひ乍らかう言つた。是清も微笑してゐた

『君の想像は?』

『矢張り政治的の事でせう!』

『まあそんなところちや』

『今回の豫算編成の事に關しては國民は皆閣下のお骨折に絕大の感謝を捧げて居ります』

『吾輩は世辭は好かん』

『これはお世辭ちやありません。實際は國民としてもまだ不滿な點もありませう然し目下の情勢ではこれ以上は望めますまい。つまり不滿乍らこれ以上望めないと云ふところまで頑張つて戴いた點に對する感謝です!』

『ハハハ……大いに近頃財政方面の知識を蓄へたと見わるの』

『嘲弄つちやいけませんよ閣下。然し隨分無理な點もあります。社會的立場に於いて餘程考慮を要する點もあります』

『それは吾輩も認めてゐる!』

『兎に角前年度にも增して軍事費、國債費を中心とした豫算になり行政費、補助費を欠いた財政となつた事は我々と雖も認めざるを得ませんな』

『うむ』

是清はむつすりとして然しこの素人の青年の批評を熱深げに聽いてゐた

『然し閣下我が國の財政が本當の健全財政に復歸するのは一體いつの日のことでせう』

『……』

『近年の我が國の財政は病的なもののやうに思へますが閣下のお力で漸く健康快復への第一歩を踏出したやうに思へます然し將來まだ〱國民の努力と犧牲とにまたなければならないのだらうと考へられますさうして又閣下のお力に……』

『恐れ入つた喃』

是清は辭を擧げて笑つたが直ぐに嚴肅な態度に返つて

『その考へ通りぢや。然し吾輩如き老耄に賴つても駄目ぢやさりとて又內閣の協力だけでも足りん國民全體の努力これこそ最も望むべきところぢやだが』

と、是清は伊皿木を顧みて

『肩の凝る話はもうよさんかどうちや吾輩の邸へ來んか飯でも食ひ乍らゆるゆる君の最近の美術界の話でも聞きたい』

言ふと、先き立つて歩き出してゐた

『閣下は……』

話好きで無遠慮なこの青年に是清と肩を並べ乍ら又話し續けた

『自他共に樂觀主義者を以て許して居られるやうですが、私には矢張り閣下にも大きな惱みの幾つかがあるやうに思へてならんのですが……』

『話が變つた喃』

『どうも私には、こんな事に興味を持ちたがる惡癖があるやうに思へますが、私には閣下の夫等の惱みの中の少くとも一つが判るやうに思へます』

『ホ、ウ、君は心理學をやつとるかな』

『閣下は藤井前藏相の長逝をどうお考へになります。閣下が御指導あつて將來御自分の後繼者たらしめやうとして居られた……』

『……』

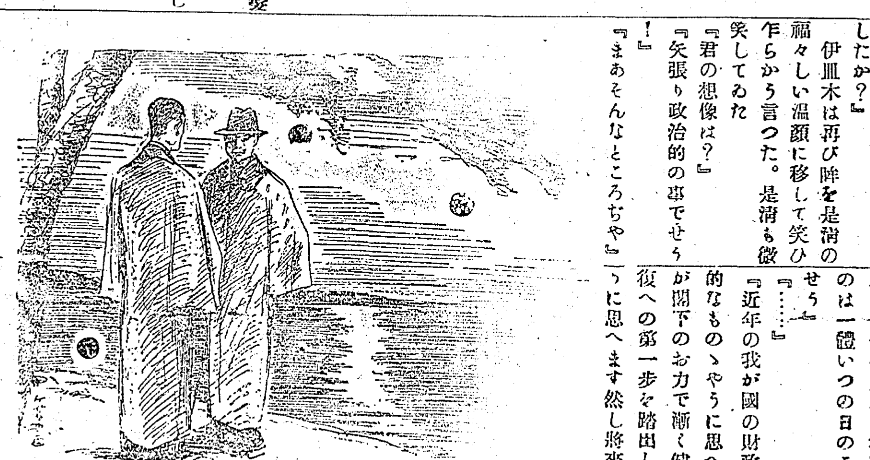
『閣下は三土さんに失望され、黑田さんを帝人事件で失はれました。閣下の後繼者は目下のところ……』

是清は首を振つて

『もうそんな話はよさんか!』

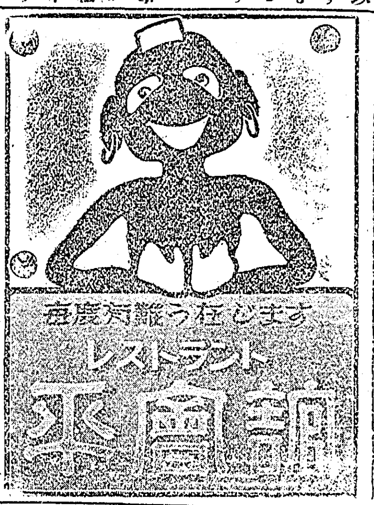
稍沈んだ語調で云つた

伊皿木は素早く是清の衷情の微細な變化を感取してハッとして口をつぐんだ。そして(惡い事を言つて了つた)と思つた



新車のおしらせ
斷然!!! 乘心地良い!!!
ベビーフォード
入車いたしました。
是非! 御試乘の程を!
市內四〇錢…市外二割引
豆タクの……
スヾキタクシー
電二一七番

互融會事業近況
融通報告(十二月卅一日)現在
會員數 五、九三七口
世帶數 四、〇一〇戶
積立金 五三、九八二、二錢
融通口數 一、一三一口
融通金額 七〇、〇七五、八七
融通金回收額 一七、二四八、三〇
一、社會公共事業及慈善事業ヘノ奉仕
一、精神修養講話會
一、會員ノ吉凶慶弔
一、會員相互見舞
一、人事相談及婚姻ノ媒介
一、診療救血ノ補償
一、稅金ノ代納事務取扱
一、會報發刊
一、勤儉日積立金ノ獎勵
一、小資本金ノ相互融通
太平火災海上保險株式會社平中央代理店
石城中小商工互融會
事務所 福島縣平町揺槌小路一番地
小名濱方部 小名濱町古港
湯本方部 湯本町天王崎
菊田方部
相双支部 原町東一番町



入院隨意(自炊の便あり)
外科 X光線 專門
平南町
病室完備
上田醫院
(電話一二九)

時代の要求 皆樣の足!!
尼子タクシーへも
豆タクが入りました。
御玄關から玄關へ…迅速簡便
是非御利用を……。
市內…三〇錢 市外…四割引
流線型セダン、大型貸切バス
宮行…直通は二丁目尼子自動車部より發車いたします。
平町二丁目
尼子自動車商會
電話六四〇番

耳鼻咽喉科專門
醫學士 鈴木正男
平町田町(電話五八番) 藤田女學校前

齒科 口腔外科
日本齒科醫學士 鈴木喜政
『入院のお需めに應ず』
(看護婦及ビ見習看護婦募集)
內郷村高坂磐炭病院前
鈴木醫院

耳鼻咽喉科
(入院應需 自炊ノ便アリ)
高柳醫院
平驛前 (電三三六)
醫學博士 高柳博明

しもやけ家傳藥
是マデしもやけハ暖カクナラネバ治ラヌモノト諦メテ居ツタノガ一日二三回二三日ノ御使用デくすれたしもやけモ忘レタ樣ニ完全ニ治リマス。現今ノ塗藥トハ異リ罨法ニヨリ根本カラ除去スルモノデアリマス。しもやけハ寒サノ爲ニ皮下毛細血管ガ障害ヲ起ス爲ニナルノデ塗藥等デハ決シテ治ルモノデハアリマセン、又くづれたしもやけニ塗藥デハ塗布ト同時ニ痛ミヲ感ジタリかゆみヲ增シタリ致シマスガ此藥ハ無刺戟ノ中ニ心地良イ罨法ニヨリ皮下ノ血行ヲ良クシ幼キ御子樣方ニモ喜バレ如何ニくずれたしもやけデモ完全ニ全治致ス事保證致シマス是非一度御試シ下サイ。
東京 丸井邦寶堂
平町一丁目
福島茨城兩縣特約 伊藤石炭店

耳鼻咽喉科專門
平町南町一六番地
(入院隨意 病室完備)
大和田醫院
電一七〇番

諸機械製作販賣
合名會社 田邊製作所
平白銀町(驛前通)
電話二九四番
機械切各種齒車製作

謹告
石炭値上リノ爲、壹俵ニ付金五錢本日ヨリ値上ゲ致スノ餘儀ナキコトニナリマシタ。ドウゾ御承認ノ上精々御下命下サル樣御願申上マス。
平驛前
阿部石炭店
電話三七番

診療科目
一、齒科一般 保存科、補綴科、繼續架工科 齒列矯正科、小兒齒科、齒槽膿漏科
一、口腔外科
一、レントゲン科
中野齒科醫院
院長 日本齒科醫學士 中野惠次
日本齒科醫學士 西川誠
(見習看護婦募集)
平町田町(松月堂向ヒ) (電話五〇九番)

総動員の努力反映し 茲に三百萬圓台突破
平局の春はがらか
簡保躍進

平局は簡易保險契約高三百萬圓臺と云ふ輝かしい記錄を作つて37年の新春を迎へたのだ―卽ち同局舊臘末現在の加入高は口數二萬三千九百二十五件、この保險金總額三百十一萬四千八百五十一圓四十錢で一件平均百三十圓二十錢弱となつてゐる又郵便年金加入高は三萬八百二十九圓二十五錢（口數二四一件）である

昨年中の新規開拓數は簡易保險五千六百三十三件四十三萬四千六百八十六圓九十錢、郵便年金が四十二件四千五百八十六圓で仙臺簡易保險局管內でも優秀な成績だと云ふが同局の係りでは『この地方は他方面に比し轉出か多いので折角新規開拓しても差引けばね……』とこの記錄を築き上げた『36年の苦勞』を語つてゐる

高久好間へ 更に勸誘の手

現在同局管內では何と云つても平町を筆頭に飯野、平窪の隣接村は加入率がよいが未だ高久、好間の兩村等は比較的少數なので同局では新春を期して大開拓に努むるべく目下種々對策を練つてゐる

十八ケ村―歩調を揃へて 理想鄕建設へ
來廿二日新計劃樹立

從來町村單位であつた經濟更生指導部は今後更に一歩を進めて部落單位に狹小し一層其の徹底を圖る事となり既報の如く來る二十二日午前九時から平園体事務所でこれが新方針徹底の協議會が開かれる

郡下の指定村は去る昭和七年の初年度に大浦、泉、錦、入遠野の四ケ村が指定されて最終の今年度迄都合十八ケ村に上り當日はこれら各村から村長以下約百名出席

縣から指示される負債整理組合設置、中堅人物養成等の諸事項に基き愈よ本格的に部落及各戸の更生計劃樹立實行に移る事となつた

意義ある記念事業に 全校長の智能を絞る
皇紀二千六百年と石城敎育部會 愼重協議を練る

石城敎育部會では過般來方部毎に各校長の會同を催し、昭和十六年の皇紀二千六百年記念事業に關し夫々準備協議を開始したが、事業の性質上最も愼重を期せねばならず、今後何回かの討議を續くる豫定であるが差當り來月初旬全郡下の校長會を開いて當面の態度を決定し、之を提げて同月中旬催さるる全縣下の校長會に臨む方針であると

勤續町村吏員表彰
近く該當者調査

石城郡町村長支會では今年も永年勤續優良町村吏員を表彰する事となり十六日開かれる同會總會でこれが該當者調査の件を附議する該當者は勤續十五年以上のもので平町役場では兵事係鈴木允氏がこれに該當し郡下では十五名乃至二十名に上る見込みである、春の總會で表彰式が擧行される

極寒ものかは 參加二百名

第一校寒稽古開始 平第一小學校の殺劔寒稽古は昨報の如く今十三日より開始、早曉五時篠山校長以下各係職員參列の下に曉闇を衝いて始業式を終へ第一日の稽古を行つたが、五時よりの第一班百七名、七時よりの第二班百四名、合計二百十一名の多數が參加何れも意氣軒昂非常な盛會であつた

東北で第二位
平署の送致件數

平署舊臘中の送致件數は百六十七件で昨年中の總件數は九百十三件・縣下他三大署を遙かに凌駕してまた／＼仙台署に次ぐ東北第二位の記錄を作り上げた

軍人後援會の徽章御親授式
榮ある地方五氏

來る三月下旬東京市に於て行はれる帝國軍人後援會員徽章御親授式に本縣支會の榮ある御親授者は有功會員一名、特殊會員十六名で之等のうち本郡關係は左の諸氏

（有功會員）江名町田村鐵藏
（特殊會員）江名町佐藤國藏　川前村松本豐松　同根本菊太　豊間村安田善一

。。。。鐵道講演會　今十三日午後四時半から水戸運輸事務所で東京鐵道局旅客課長高瀨傳氏の旅客サーヴィス改善の講演あり山崎平驛長外沿線驛長が聽講した

。。。。產馬區長會　石城產馬畜產組合では十七日午前十時から平園体事務所に區長會を開く

二十人に一人
來月十四日執行の 鐵道試驗地獄

いまでは求職青年の憧れの的となつてゐる鐵道傭人採用第一次試驗は既報の如く來月十四日平町（場所未定）で行はれるので平驛でも過般來受驗者を取纒め中だつたが此程五十七名で締切つた

水戸運輸事務所管內の應募者は大体三千名を破突するものと見られ、このうち採用は僅か百五十名前後と云ふ試驗地獄振りだ

る

女給さんの―錢湯代値上げ―

女給連の錢湯代は藝妓、酌婦の五錢に對し四錢だつたが平湯屋組合では此程總會に附議した結果五錢に値上げした、尙改選された役員左の如し

組合長愛澤長次　副組合長飯田近治　會計增子富治

山本海軍豫備中尉
鐵工業の視察

鐵工業振興計劃のため平町に配屬される專任指導員海軍豫備中尉山本將雄氏は追縣經濟部長と共に今十三日來平、市內の鐵工業を仔細視察した上住吉屋本店に一泊明十四日は小名濱、江名方面を視察する

突如寒波來―氷點下四度三分
但し從來の溫暖續きから 感度が甚かつた丈け

大寒には未だ一週間以上もあるに朝來の急激なる溫度下降は夜に入つて一層甚しく今十三日朝の最低氣溫まさに氷點下四度三分（攝氏二十四度三分）各水道の凍結無數、今冬初めての極寒氣分を現出した小名濱測候所の觀測によるとこの冬に入つて一番の寒さで之は支那方面の高氣壓がハミ出した影響を受けたもので今年は從來例年の平均溫度に比べ非常に溫暖であつた爲比較的感度が强かつたと云ふ丈けで大して寒いと云ふわけではない、明日は北西の風晴で依然寒いが、支那方面の高氣壓が依然張り切らねばまた溫くなるであらう、云々

內風呂の普及から お湯さんの悲鳴
目下の處大体缺損續き

平町のお湯屋さんは地の利を得たる二三を除き何れも營業不振に悲鳴をあげてゐる。新興躍進の土地柄不振とは些か受取られぬ話であるが、蓋し動かし難い事實なるを如何せん。卽ち平町の現勢を大掴みに五千戸として最近內風呂の普及から其の所有者及び之に緣故を有して錢湯によらざるも還つて行ける家庭四千戸、殘りの千戸が約十軒の湯屋に均霑するわけであるが、一戸平均百戸も入浴が隔日位の見當で且つ全家族が入るもので無し、一方支出は每日水道一圓、燃料二圓外若干の人件費を見込まねばならぬ勘定となり目下の處では大体缺損狀態で當業者は昨今に於ける湯屋の霜枯れ季から脫却の日を待つてゐ

一躍約三割激增
昭和人絹の影響を受けた 昨年中の植田驛

植田驛は最近隣接錦村に於ける昭和人絹の操業伸展により驛務一般異常の繁激を加へ來つたが這般の消息を最も端的に物語る乘降人員に就て觀ると昨十一年分の（乘車人員）二十五萬五千八百八（降車人員）二十二萬五千三百八（合計）四十五萬一千百八で前年分に比し一躍三割の激增を示し、尙は今後の增加を豫想されてゐる

老ひの目に嬉し淚
手術するツルさん 光を求めて新潟へ

氣の毒な盲人達を光明の世界に救ひ出さうとする開眼手術第一回檢診の結果熊谷博士から『見込大いにあり』の嬉しい折紙をつけられた平町の一人――田町驛前九淸旅館のおばあさん佐藤ツル（七九）女は町役場から正式通知を受けると大喜び、早速今十三日倅の淸六さんから手術を受ける旨町役場に申し出た

ツルさんは語る ほんとに嬉しい

當のツルさんは老ひの目に嬉し淚をたゝえながら語る

十年位前から何だか目がかすんでゐたが一昨年頃からはそれが一層ひどくなつてとても不自由でした、お醫者に見て貰へば年が年だから駄目だらうと云ふのであきらめてゐた處でしたがこんな嬉しい事はありません、早く行きたいものです。云々

負債整理組合設立
經濟更生の第一步

と云はれてゐる負債整理組合は現在縣下に七十二組合あるが、未だ充分に普及を見てゐないので縣では過般來優良經濟更生指定村を選び『負債整理組合委員會』の設置獎勵を促してゐたが愈よ本郡下では渡邊、山田の兩村に前記委員會が設けられ縣の指導に基いて事業を進める事となつた、尙兩村に對し農林省から百圓內外の補助金が交付される筈

投檜
投書歡迎

縱の政策で進め。。。。

◇今年の平町には前途に商業、第四小學校の問題やら公會堂計劃やら色々輝かしい事業が約束されてゐると云ふ極めて景氣の良い記事を春早々御紙によつて知つた

◇誠に結構な事に相違無く生を町に享くる一人としてワク／＼と胸のときめきを咸するものであるが此際些か退嬰氣分乍ら斯う間口ばかり廣げる處に豫算關係などの知らぬ自分達の憶病がある

◇此際橫の政、策で進む事も向上を急ぐ意味に於て勿論必要であるが假に縱一本で奧深く漸を逭ふて諸計劃の實現を圖つた方が町財政の經理から云つても都合が良かりそうに想はれる

◇地味にスローモーは附きものである。平町の今日がさう悠長な事を云つて居れないとせば別もの、愚直な一町民の言として考へて見て下さる場合あらば本懷の絕大なるものである

（鎌田橋畔人）

呑吐廿七萬
植田町の賀狀雪崩

植田町の一般郵便物は晩近急激なる增加を示し本年の年賀狀は引受高十一萬四千七百五十通、配達は十五萬九千五百通、合計二十七萬を突破する物凄さであつた

平町附近試掘許可

東京市淀橋區柏木町に本社を有する赤井炭鑛株式會社出願に係る平、好間、平窪一町二ケ村に跨る七十二萬二千七百坪の石炭試掘は此程許可になつた

青年してやらる

大野村字栗木吉田繁（二八）さんは十日夜郡山市田中町香取屋旅館に投宿したところ隣室に宿つてゐた信夫郡渡利村大工職渡邊庄平に現金四十圓を拔きとられ蒼くなつて郡山署に屆け出た

天氣豫報
（小名濱測候所觀測）

今晩も明日も北西の風晴

橫濱へ高飛びか?
勿來の家出娘

昨報＝炭礦を馘首された戀人＝大日本炭鑛職工志賀德男（三三）＝と共に現金百六十圓を懷ろにして驅落ちした

勿來町酒井雜貨商羽山ハルの養女ミヨ（二二）については心中の虞れもあるので目下各方面を搜索中であるが、其後橫濱市保土ケ谷方面に住む男の知人を賴つて行つた事實が判つたのでハルから更に保土ケ谷署にも搜索方を願ひ出た

ミヨは近く他の男と結婚式まであげることになつてゐたが德男の事が思ひ切れずたま／＼男が馘首されたので發母の許を飛び出したものらしい

。。。。木材組合發會　郡南木材業組合結成委員會は發會式を明十四日午後一時より植田町に於て開催すると

。。。。恩給年金拂出　植田局では恩給年金人員八十五名に對する第一期分六千百圓を一昨十一日仕拂つた

。。。。靑沼町長出福　靑沼平町長は來る十五日福島縣農會樓上で開かれる縣下町村長支會長會議に出席する

。。。。牧野改良補助金　川前村佐久間留藏氏は東北振興關係牧野改良補助金として農林省から二百八十圓を交付された

。。。。青年に捜索願　東京市本所區梁川町四ノ一〇鐵工業福之助長男安見一郎（二九）は去る二日新潟縣下關山スキー場若尾旅館に行くと稱し現金五十圓を持つて出かけたまゝ行方を晦ましたので十三日福之助から平署に捜索願

新暦一月十四日　木曜
舊暦十二月二日　辛丑　先勝　建　斗宿

評判定應需　東京市本郷區湯島四丁目　高島易斷總本部　神鼓館

▲一白　過ぎたるは及ばざる理想高きも實は得られぬ日▲二黑　花のしぼみて實を結ばざる如し移轉動土亦凶▲三碧　あとのこりの無きやう仕事を片付くるに害なり▲四綠　他の藉口に誘はれて進退兩難に陷る如き日▲五黃　不滿の念を起さず常業に勉むれば利じゆんあり▲六白　目先の利益のみ趺りて後々を思はざれば凶▲七赤　小さく始めたる業も次第に擴大せらるゝ日▲八白　希望に添はざる事も辛抱强く勵めば功あり▲九紫　運途は全盛にして多少の無理も通らんとす

十四日（小名濱測候所發表）
滿潮　前六、〇五　後四、四五
干潮　前一一、二五　後一一、五〇

廣告

おでん 一平
出前迅速　電話二六三番

高久病院
院長 高久忠　電話五一三番

和洋 建具 家具 テーブル 椅子
其他裝飾品一般……
御用命は迅速に御努め致します。

諸官衙 各學校 御用達
製作販賣
（片）片寄製作店
平町五丁目四
片寄小彌太　電話四八四番

◎日本石油株式會社特約店
フイツシアサン石油株式會社東油特約店
關彰商店平支店　電話六一番
本店　水戸線下館驛前（電話五五・三三九番）
茨城縣土浦町田宿（電話六五三 八二四）
支店所在地
常磐線關本驛前（電話平潟五四）
常磐線四倉驛前（電話四八）
久慈濱支店（電話二三七番）
小名濱支店
海上給油所 大津、平潟
及油槽所 江名濱

營業種目
石油、揮發油、輕油、重油、モビール油、マシン油、機械油類、植物油、胡麻油、種油、コールタール、カーバイト、石炭、コークス、ストーブ

產科 婦人科 花柳病科
午前 宅診　午後 往診　入院 應需
井坂醫院
平町田町（元合津醫院跡）
電話五五九番

一般貨物運搬
迅速低廉に御取扱ひ致します。
福好工業合資會社
代表者 强口唯七郎
自動車部　電話二八二番
砂利、砂の御用命に對しては特に廉價にて御供給致します。